

平成 26 年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	建設緑政局道路河川整備部河川課	要素事業所管課	建設緑政局道路河川整備部河川課
----------	-----------------	---------	-----------------

1 計画の概要

計画の名称	1 災害に強く豊かな環境を育む安全・安心な地域づくり（防災・安全）	計画の期間	平成22年度～平成26年度
計画の目標	都市化が進展し、河川はんらん域における人口・資産の集積化が進む本市において、市民を洪水や浸水の被害から守るため、時間雨量50mm相当の降雨に対する治水安全度の確保を図る。 併せて、景観に配慮した川づくりにより都市環境の向上と良好な水辺空間の形成を図る。		
計画の成果目標（定量的指標）	・ 浸水被害対策を実施する地域において、時間雨量50mmに対する治水安全度の確保を図ることにより、浸水が想定される区域及び浸水想定家屋数の減少を図る。		
計画変更を行った場合、変更内容の概要			

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況（概要）

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)※見込み	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	平瀬川、二ヶ領本川（五反田川放水路）都市基盤河川改修事業	2,548,091	1,599,350	1,599,350	100	五反田川放水路のシールドトンネルが完成の見込み。
B (関連社会資本整備事業)	—	—	—	—	—	—
C (効果促進事業)	—	—	—	—	—	—
全体事業費（A+B+C）		2,548,091	1,599,350	1,599,350	100	
				【財源内訳】 国：410,000 県：410,000 市：779,350		

3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浸水想定面積（ha）</li> <li>・ 浸水想定家屋数（戸）</li> </ul>			
定義及び算定式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浸水想定面積（ha） 改修計画を策定した流域における、時間雨量50mmに対する浸水が想定される面積を算定。</li> <li>・ 浸水想定家屋数（戸） 改修計画を策定した流域における、時間雨量50mmに対する浸水が想定される区域内の家屋数を算定。</li> </ul>			
その指標を設定した理由	・ 時間雨量50mmに対する治水安全度の確保に関する指標として設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24末)	最終目標値(H26)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 258.96ha</li> <li>・ 5,568戸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 258.06ha</li> <li>・ 5,568戸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 256.76ha</li> <li>・ 5,543戸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 258.36ha</li> <li>・ 5,561戸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未達成</li> <li>未達成</li> </ul>
目標達成状況に対する所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浸水想定面積、浸水想定家屋数ともに減少したものの、目標値の達成には至らなかったが、治水安全度の向上は図られた。なお、交付金以外の予算で実施した平瀬川トンネルのライニングによる改修分を含む値では、浸水想定面積230.86ha、浸水想定家屋数4,764戸となり、治水安全度の向上に大きく寄与しており、現時点の実態を反映させた実績値となる。</li> </ul>			
将来の見込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該計画に位置付けている継続中の各事業については、今後も着実に事業を推進することにより、河川改修が進捗し、治水安全度の向上が見込まれる。</li> </ul>			

4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	平瀬川支川の景観に配慮した川づくりによる良好な水辺空間の形成
定義及び算定式	<ul style="list-style-type: none"> <li>法面緑化率（％） 改修した全護岸面積に対する法面緑化面積の割合</li> <li>遊歩道整備延長（m） 改修事業に伴い整備した遊歩道の延長</li> </ul>
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川整備による治水安全度の向上と併せて、川本来の清らかで多様な流れを取り戻し、地域のシンボル・ふれあい活動の場となる水辺空間の形成は、都市環境の向上に寄与するため、指標として設定した。</li> </ul>
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>治水安全度の向上に併せて景観に配慮した川づくりを行うため、平瀬川支川の河川改修事業に伴い、従前では緑化されていなかった護岸について、親水性の高い緩傾斜護岸を整備し、その法面を緑化したことにより、改修した全護岸の約 16%の法面を緑化することができた。また、同護岸に近接して約 139mの遊歩道を整備した。これにより、市民がより水辺に親しめるような良好な水辺空間が創出された。</li> </ul>

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 内容：市のホームページにおいて、事業目的、事業概要、事後結果を掲載し、市民から意見を募集。 手法：担当課への意見書の郵送、FAX、メール、提出などによって意見を募集。 実施期間：10月1日～10月31日</li> <li>2 内容：五反田川放水路及び平瀬川支川の現場付近にて、地元住民にアンケート調査を実施 実施期間：10月24日</li> </ul> </li> </ul>
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	<p>市ホームページでは3件の意見が寄せられ、河川改修や景観などに対する肯定的な意見が見られた。アンケート調査では、五反田川放水路については45人から回答を得ることができ、事業を「知っている」が約2割であったが、事業完成後の「効果があると思う」が約6割、浸水被害軽減対策として河川改修を「進めた方がよい」が約7割であり、肯定的な意見が多く見られた。</p> <p>平瀬川支川については38人から回答を得ることができ、事業を「知っている」が約6割、改修効果を「感じている」が約5割であり、氾濫の危険性の減少や景観がよくなった、多自然かわづくりに満足しているなどの肯定的な意見が多く見られた。</p> <p>一方、自由意見として、「自然を壊さない程度に改修を進めてほしい」、「氾濫のある場所を優先してほしい」、「維持管理も行ってほしい」などの意見もみられた。</p> <p>計画目標に基づき、今後も治水安全度の確保と、景観に配慮した川づくりによる都市環境の向上と良好な水辺空間の形成を継続していく方針である。</p>

6 今後の方針等

総合的な所見	<p>目標の達成状況については、浸水想定面積、浸水想定家屋数ともに減少したが、平瀬川支川の河道改修において、事業用地の取得が難航したため、当初の計画整備延長に対して約3割程度の整備延長となったことにより、達成には至らなかった。</p> <p>事業効果と課題については、浸水想定面積及び浸水想定家屋数ともに減少したことや、市民意見・アンケート調査の結果、「川が広がって氾濫の危険が減った」、「景観がよくなった」など、肯定的な意見はあったものの、五反田川放水路事業の認知度が22%と低かったことから、事業の周知方法についての検討は必要であるが、少なからず事業効果はあったと考える。</p>
今後の方針	<p>次期計画においても、引き続き五反田川放水路及び平瀬川支川の未整備箇所を整備することにより、さらなる治水安全度の向上を目指す。また、住民参加による多自然かわづくりを進め、親水性や水循環に配慮した構造を推進することで、住民参加によるまちづくりの活性化と都市環境の向上等の整備効果が期待される。</p> <p>次期計画策定に向けては、計画全体の目的に合った適正な指標を検討し、また、事業の進捗状況を適宜確認しながら事業を推進する。</p>

次期計画  
あり・なし